

## JASMA 会報

2022年1月発行（季刊）一般社団法人日本縫製機械工業会

## CONTENTS

新年ご挨拶	1
年頭所感	2
2021年度第3回共通基盤ネットワーク研究会開催	3
令和3年秋、藍綬褒章受章について	4
第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定	4
JASMA部会・委員会・WGの紹介	4

## 新年ご挨拶

一般社団法人日本縫製機械工業会  
会 長 内 梨 晋 介



明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭を迎えるに当たり、皆様には希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、日本始め世界各国で新型コロナウイルス感染症の脅威が続いたものの経済社会活動回復に向け

た一年となりました。国内においては、複数回にわたる新規感染者数の増加に伴う経済活動や日常生活の制約があったものの、10月の緊急事態宣言解除後は、新規感染者数も低位に推移しており、ワクチン接種率の向上、医療供給体制の強化などにより、飲食業、宿泊業などの業種を含め経済活動が再開され国内景気は上昇傾向となっております。同時に、「新しい日常」の実践によりテレワークの活用などこれまでとは異なる働き方も定着し、これらをミックスした新たな経済活動の時代になったといえます。

さて、今年の国内景気は、昨年12月からの新たな変異株の出現を受け先行き不透明ながらも、政府による各種政策効果などもあり、経済活動のさらなる回復に期待しております。なお、半導体供給や海上物流などの制約による企業活動への影響、欧米の法規制を伴う人権問題や環境問題の動きによるグローバルサプライチェーンへの影響には注視する必要があります。

一方、世界景気は、国や地域によるばらつきはあるものの、総じてコロナ禍による落ち込みから回復を続け、多くの主要国では、ワクチン接種率の向上により、防疫と経済活動の両立が進みましたが、部品材料不足の深刻化、資源価格の上昇、中国の電力不足による減産などもあり、第3四半期から回復ペース

がやや減速しているところです。

本年は、ワクチン接種の世界規模での拡大により経済活動が正常化へと進むことで、雇用、所得、消費の回復が期待できると思います。しかし、半導体の供給不足や人手不足の状況、米国の利上げによる金融市場への影響、中国経済の減速などのリスクには注意が必要です。さらに、米国・中国双方の貿易や投資に関する規制強化の動きは日本企業への影響も懸念されます。

縫製機械業界においては、コロナ禍による経済活動の制約やSDGs「持続可能な開発目標」の浸透によるアパレル製品販売の不振から回復基調にあり、工業用ミシンの生産、販売は復調しました。家庭用ミシンはコロナ禍の中での「巣ごもり需要」の不服感、海外工場の稼働率低下や物流面の問題はあったものの継続的な需要が見込める状況でした。

本年は、工業用ミシンでは消費活動の活性化やネット販売の進展によるアパレル市場の回復、家庭用ミシンではものづくりを見直す気運の継続・醸成に期待しております。当業界としては、働き方改革への対応や企業変革を図るためにもデジタル技術・ネットワーク技術を活用したデジタルトランスフォーメーション（DX）やコネクテッドな世界の構築を進めることが必要と思います。なお、本年1月から中国、韓国を含め発効される「地域的な包括的経済連携（RCEP）協定」には期待したいと思います。

令和4年（2022年）の十二支（じゅうにし）は「寅（とら）年」です。寅は、「決断力と才知」の象徴としての意味を持つこのことで、新型コロナウイルスに対するワクチンや経口薬の使用が早期に普及し、「新しい日常」をベースとした新規事業の創出や新たな事業の転換につながることを願っております。

このような状況を踏まえ、当工業会は次の取り組みを主に実施いたします。

一つ目はJIAM 2022 OSAKA「国際アパレル機器&繊維産業見本市」です。2020年の開催を延期いたしまして、本年2022年11月30日(水)～12月3日(土)、場所はインテックス大阪4号館、5号館、6号館Bにおいて、テーマ名「JIAMから、つながる...次世代技術と匠の技のコラボレーション」として開催いたします。

本見本市は、「日本の最新技術を発信する場」であり、「課題解決やカイゼン活動に取り組んできた匠の技術」と「最新技術」を融合・協働することで、新たな付加価値を生み出す次世代の製品やシステムをご覧いただける場を目指しております。

昨年9月より、実行委員会を中心にセミナー及び主催者企画の再検討を行うとともに、継続出展された出展者様、ご事情により出展をキャンセルされた出展者様などに出展の確認を実施しているところです。引き続き、縫製機械業界の皆様からの積極的な参加に加えて、アパレル・繊維業界そして関係官公庁・団体の皆様方からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

二つ目は、家庭用ミシンを使った『ものづくり』の普及促進に関することです。その事業の中心となる第42回「ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール」は、コロナ禍の中ではありましたが、家庭科教育として作品作りに取り組んでいただき、応募校数637校(前年415校)、応募作品数3,689点(前年2,482点)と大幅に増加しました。いずれも素晴らしい出来栄への力作やアイデア溢れる個性的な作品となりました。関係された先生方、学校関係者、ご賛同いただいた皆様方のご協力に

深く感謝いたします。

表彰式は、来る3月5日(土)に開催することとしておりますので、多くの方々の参加をお待ちしております。私共としては、今後も本コンクールが、家庭科教育におけるミシンを通じた我が国『ものづくり』文化のすそ野拡大、並びに将来のアパレル・ファッション・繊維産業を担う人材の育成に寄与していくものと期待しております。

三つ目は、IoT、AI、ロボット、ビッグデータの活用に加え、新しい日常の中でのコネクテッド・インダストリーズやDXへの対応です。

当工業会の「共通基盤ネットワーク研究会」の4年目は、アパレル、副資材、プリント、CAD/CAM、ミシン業界など関係者にお集まりいただき、縫製工場を取り巻くさまざまなデータ利活用の参考となるご講演を専門家の方々からお聞きして、諸課題を抽出し、研究テーマを考えることとしております。これまで取り組んできた課題を含めまして、業界や個社としてDXを推進する際の参考になればと考えております。

最後になりますが、私共としては、本年も、会員企業間のコミュニケーションの更なる充実を図りつつ、経済産業省のご指導のもと、関係諸団体とも連携を密にし、当工業会の着実な運営と発展に向けて努力してまいりたいと思っております。

令和4年が新型コロナウイルス感染症収束を迎え、災害のない穏やかな年となるよう祈念するとともに、皆様方のご健勝と益々のご活躍、ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 年頭所感



令和4年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスとの厳しい戦いを余儀なくされた1年でした。新型コロナウイルスにより健康面や生活面などで影響を受けておられる方々に心よりお見舞い申し上げます。

足下では、新たに報告されたオミクロン株が多くの国で確認されるなど、新型コロナウイルスとの戦いは続いておりますが、2050年カーボンニュートラル、経済安全保障、人権デュー・ディリジェンスなど、ポストコロナの時代に向けた取組を、引き続き皆様と進めてまいりたいと思います。

経済産業省製造産業局

産業機械課長 安田 篤

昨年10月には、第6次エネルギー基本計画を閣議決定し、2050年カーボンニュートラル、2030年度の新たな温室効果ガス排出削減目標の実現に向けたエネルギー政策の道筋を示しました。徹底した省エネルギーの推進や、再生可能エネルギーの最大限の導入、非効率石炭火力のフェードアウト、水素・アンモニア、CCUS等を活用した脱炭素型の火力への置き換えを進めるなど、この計画を実行していきます。

新型コロナウイルスの影響もあり、リモートワーク等日常生活におけるデジタル化が幅広く浸透しました。従来の工場の人手不足や生産性向上に対応したロボット等のデジタル技術の活用のみならず、物流や小売業等でのロボット導入や、インフラ点検や離島物流、災害対応でのドローン活用など、新たな技

術の活用が拡大しています。昨年11月には、ユーザー側がロボットを導入しやすい環境、いわゆる「ロボットフレンドリー（ロボフレ）」を実現するための取組の一つとして、経済産業省内においても、コンビニエンスストアのバックヤード作業を行うロボットを導入しました。こうした成果も活用しながら、引き続き、更なる環境整備に努めてまいります。

米中対立の激化や新型コロナウイルスの影響で明らかになったサプライチェーン上の脆弱性に対処するため、重要な生産・技術基盤の強靱化等を通じて、我が国の自律性・技術優位性の確保を強力に進めます。特に、「産業の脳」とも言われる先端半導体の製造拠点の、我が国への立地促進に向けて、「半導体産業基盤緊急強化パッケージ」を打ち出し、他国に匹敵する形で、複数年度にわたる支援の枠組みを構築します。

サプライチェーン全体での競争力強化を図る上では、企業間の取引適正化も重要な課題です。産業機械業界では、約束手形の利用等廃止も盛り込んだ業種別の自主行動計画の改定に御協力いただきました。この場をお借りして業界の皆様の御尽力に深く感謝を申し上げます。引き続きサプライチェーン全体で付加価値を生み出せるよう、望ましい取引習慣の遵守を宣言する「パートナーシップ構築宣言」の拡大に御協力いただくとともに、取引の適正化に向けて、幅広い業界の方々との議論を深めながら取り組んでまいりたいと思います。

また、福島の復興は、経済産業省の最重要課題です。経済産業省では、福島県とともに、「福島イノベーション・コースト構想」の中核となる「福島ロボットテストフィールド」を拠点として、ロボットに加えて、ドローン、空飛ぶクルマといった次世代空モビリティの研究開発・実証や制度整備等を推進しております。昨年は、新型コロナウイルスの影響により延期となっていた「World Robot Summit 2020」を9月に愛知、10月に福島ロボットテストフィールドで開催いたしました。引き続き福島をロボットや次世代の空モビリティのイノベーションの中核地とすべく、取り組んでまいります。

2025年には大阪・関西万博を迎えます。「未来社会の実験場」をコンセプトに、空飛ぶクルマの飛行実現も含めた最新の技術や、その技術を活用した、様々な課題解決の具体的事例を集めて、世界中に発信していきます。日本の、そして、世界の課題解決につながる万博のレガシーを作ることができるよう、政府のみならず、自治体や経済界と一致団結して取り組んでまいります。

これからも皆様の現場の声をお伺いし、それを産業政策に生かしていきたいと考えております。何かお困りごとや御提案などがございましたら、どうぞお気軽にお声を掛けてください。

本年が、皆様にとって更なる飛躍の1年となることを祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

## 2021年度第3回共通基盤ネットワーク研究会開催

本年度の第3回共通基盤ネットワーク研究会を2021年12月13日（月）、15時から16時20分まで航空会館（東京都港区新橋）にてオンライン形式併用で、以下の講演会を開催しました。

### (1) 講演「ファッション3Dモデリング技術によるファッションDXの未来」

講師 市川 雄司 様

株式会社TFL 代表取締役

株式会社FMB 代表取締役社長／CEO

一般社団法人 ファッションデザインエンジニアリング協会 理事

3DCG制作の現状、普及に向けた取り組み及び3DCGクリエイターの育成等について講演いただきました。

講演後は質疑応答、意見交換が行われ、参加者はオンライン出席も含め47名でした。





## 令和3年秋、藍綬褒章受章について

この度、正会員「ヤマトミシン製造株式会社」代表取締役社長、当工業会副会長の近藤章吾様におかれましては、令和3年に産業振興の功績が認められ、「藍綬褒章」の栄に浴されました。心よりお祝い申し上げます。



## 第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクール入選作品決定

全国の小学生、中学生、高校生を対象に実施した第42回ホームソーイング小・中・高校生作品コンクールは、応募校数は637校（前年415校）、応募点数は3,689点（前年2,482点）でした。厳正な審査の結果、入選作品などが次のとおり選ばれました。

入選作品表彰式は、2022年3月5日（土）、14時30分よりオンラインを併用し日本工業倶楽部（東京都千代田区丸の内）で執り行う予定です。なお、入選作品等の詳細につきましては、後日、会員及び報道機関向けにお知らせします。

### 1. 作品賞

- 最優秀賞 5点
- アイデア賞 3点
- 努力賞 199点
- 優秀賞 25点
- 佳作賞 37点
- 全国ミシン商工業協同組合連合会技術賞 1点

### 2. ホームソーイング振興最優秀校賞

小学校、中学校、高等学校 各1校（計3校）



## JASMA部会・委員会・WGの紹介

当工業会は、各事業活動を進めるにあたり、担当する部会・委員会・WG（ワーキンググループ）（以下、部会等）で、事業の目的、内容、進め方等を検討し、理事会・総会で承認後、各事業を推進しております。現在、当工業会では14の部会等があり、今回は部品部会の活動内容を紹介します。

### 部品部会

工業用ミシン部品の製造・販売を主とする7社からなる委員構成で、ミシン部品製造の他、自動車・医療分野など様々な分野で積極的な事業展開しております。

今年度は、コロナ感染症の影響でオンライン開催を2回しており闊達な意見交換を行っております。

### 編集後記

あけましておめでとうございます。本年もよろしく願い申し上げます。

新型コロナウイルスの第6波により、またもや私たちの生活に様々な制約が課されようとしています。そのような状況ではありますが、来月18日～19日に3年振りとなる大阪ミシンショーが開催されます。

新型コロナウイルス感染拡大が国内での生産体制を見直すきっかけとなり、国内縫製への期待感も高まりつつあるようです。ここ数日の急拡大で開催が懸念される場所ではありますが、業界関係者としては無事に開催されることを祈るばかりです。（N.Y）

## JASMA 会報

Vol.18 No.4 2022年1月31日発行

一般社団法人日本縫製機械工業会  
発行責任者：湯原 孝志

〒105-0004  
東京都港区新橋5-25-3 第2一松ビル2階  
TEL. 03-6435-8190 FAX. 03-6435-8192

URL <https://jasma.or.jp>  
Eメール [info@jasma.or.jp](mailto:info@jasma.or.jp)

本JASMA会報は、当工業会ホームページに掲載しております。